

プロジェクト名	グローブハウス建設(元子ども兵社会復帰施設住民参加型建設)プロジェクト
実施地域	ウガンダ共和国 グル県
実施期間	5ヵ月間 (2006年7月～2007年11月) 完了
ターゲットグループ	元子ども兵士／現地住民
受益者数	約 250 人
プロジェクト目標	元子ども兵や貧困層住民が基礎知識や平和教育、環境教育などを学ぶ為の施設が建設され、元兵士と住民がこの施設の建築補助共同作業や、和解促進の為のワークショップを通して両者の和解が促進される

(1)プロジェクトの概要

基礎教育や和解促進の為の平和教育などを主目的とした元子ども兵の社会復帰施設を元子ども兵と現地住民が協力して建設する住民参加型建設プロジェクトです。元子ども兵と地域住民が建設作業、水汲みなどの補助作業に関わり、同時に元子ども兵と地域住民への和解促進のためのワークショップを期間中 5 回開催しました。建設後は当会の[元子ども兵社会復帰支援プロジェクト](#)を実施する為の施設として活用しています。

グローブハウスは、スマイルハウス(洋裁訓練棟)の隣に建設され、1つの小教室(オフィススペース)と1つの教材用の倉庫、1つの大教室で部屋割りが構成されていて、大教室では 100 人以上を収容しワークショップなども行えるようになりました。また、訓練に必要な机や椅子、黒板などの備品なども整備し、これまでスマイルハウスの仮教室で行ってきた基礎教育や平和教育などの科目はこのグローブハウスで実施していくことが出来るようになりました。

(2)建設作業の様子



敷地の整備、基礎工事の様子



基礎工事が完了



レンガの積み上げ作業が終わり屋根工事開始された時の様子。



グローブハウスの完成

(3)グローブハウス内の様子



大教室で学ぶ元子ども兵(チャイルドマザー)たち



小教室で学ぶ元子ども兵(両者とも視覚障害者)



大教室での心理社会支援活動の様子

(4) 紛争(再発)予防への配慮について

ウガンダ北部のグル県では住民の87%が国内避難民となり(2005年当時)、同地へは多くの援助機関から大量の資金が注入されていますが、援助プロジェクトの(調達業務などの)過程で建設を請け負う大手の建設業者や運送業者、流通業者、資材調達先となる卸売業者、援助関係者など一部の裕福層やその周囲(親族や友人など)のみに資金が偏って流れ、地元での貧富の格差を拡大する恐れがあります。また汚職の問題なども絡み、このような紛争地域で貧富の格差が拡大していくことは、貧困削減を難しくするだけでなく、紛争後の新たな争いの火種や社会不安の要因にもなります。当会では、紛争予防の視点からプロジェクトの実施過程においても(貧富の格差の拡大や住民間の対立など)地域社会へのマイナス影響を最小限に抑えるよう配慮し、今次建設プロジェクトにおいては、大手建設業者ではなく、個人のエンジニアと契約し資材調達から施工管理までを同エンジニアと協力し当会現地スタッフが共に行い、元子ども兵と地元の貧困層の人々を優先して雇用することで両者の和解促進、関係改善にもつながるよう努めました。



※同建設プロジェクトは(株)アイケイ様のグローブ基金より建設費、教室の机、椅子、黒板などの備品をご支援頂きました。多大なご支援に心より御礼申し上げます。

[グローブハウスでの活動状況はこちら「元子ども兵社会復帰支援プロジェクト」](#)